

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成29年11月2日(2017.11.2)

【公開番号】特開2015-202150(P2015-202150A)

【公開日】平成27年11月16日(2015.11.16)

【年通号数】公開・登録公報2015-071

【出願番号】特願2014-81933(P2014-81933)

【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F	5/04	5 1 2 Z
A 6 3 F	5/04	5 1 2 B
A 6 3 F	5/04	5 1 2 G

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月21日(2017.9.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な可変表示部を備え、前記可変表示部を変動表示した後、前記可変表示部の変動表示を停止することで表示結果を導出し、該表示結果に応じて入賞が発生可能なスロットマシンにおいて、

遊技者が前記可変表示部の変動表示を開始させるために操作する開始操作手段と、
表示結果が導出される前に、入賞について発生を許容するか否かを決定する事前決定手段と、

前記事前決定手段が入賞の発生を許容するか否かを決定したときに、性能試験を行う際に接続される試験装置に対して該事前決定手段の決定結果を特定可能な事前決定信号を出力するための出力制御を行なう事前決定信号出力制御手段と、

1ゲームに要する最短時間が所定の規制時間以上となるようにゲームの進行を規制する進行規制手段と、

遊技制御プログラムが記憶されている記憶手段と、

前記遊技制御プログラムにもとづいて、演算処理を実行する演算処理手段とを備え、

前記遊技制御プログラムには、所定の呼出条件が成立したときに呼び出される第1呼出ルーチンと、所定の割込条件が成立したときに呼び出される第2呼出ルーチンとが含まれ、

前記演算処理手段は、第1呼出ルーチンが呼び出されたときは前記演算処理手段による演算状態を特定可能な特定情報を所定領域に格納しない状態で第1呼出ルーチンの実行を開始し、第2呼出ルーチンが呼び出されたときは特定情報を所定領域に格納した状態で第2呼出ルーチンの実行を開始し、

前記事前決定手段は、前回のゲームにおいて前記事前決定信号の出力制御を開始してからの経過時間に関わらず、今回のゲームにおける前記開始操作手段が操作されたときに、入賞の発生を許容するか否かを決定し、

前記事前決定信号出力制御手段は、

前回のゲームにおいて前記事前決定信号の出力制御を開始してから前記所定の規制時間が経過する前に今回のゲームにおける前記事前決定信号の出力制御が開始可能になった場

合、該所定の規制時間が経過したときに前記事前決定信号の出力制御を開始し、

前回のゲームにおいて前記事前決定信号の出力制御を開始してから前記所定の規制時間が経過した後に今回のゲームにおける前記事前決定信号の出力制御が開始可能になった場合、該事前決定信号の出力制御が開始可能となつたときに前記事前決定信号の出力制御を開始する

ことを特徴とするスロットマシン。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

上記課題を解決するために、本発明の手段1のスロットマシンは、

各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な可変表示部（リール2L、2C、2R）を備え、前記可変表示部（リール2L、2C、2R）を変動表示した後、前記可変表示部（リール2L、2C、2R）の変動表示を停止することで表示結果を導出し、該表示結果に応じて入賞が発生可能なスロットマシン（スロットマシン1）において、

遊技者が前記可変表示部の変動表示を開始させるために操作する開始操作手段と、

表示結果が導出される前に、入賞について発生を許容するか否かを決定する事前決定手段（内部抽選）と、

前記事前決定手段（内部抽選）が入賞の発生を許容するか否かを決定したときに、性能試験を行う際に接続される試験装置（試験装置1300）に対して前記事前決定手段の決定結果（内部抽選の結果）を特定可能な事前決定信号（特別下位、一般下位、特別上位、一般上位）を出力するための出力制御を行う事前決定信号出力制御手段（内部当選フラグ1～8信号の出力制御）と、

1ゲームに要する最短時間が所定の規制時間（4.1秒）以上となるようにゲームの進行を規制する進行規制手段（メイン制御部41がゲームの進行を規制する制御）と、

遊技制御プログラムが記憶されている記憶手段（ROM41b）と、

前記遊技制御プログラムにもとづいて、演算処理を実行する演算処理手段（CPU41a）とを備え、

前記遊技制御プログラムには、所定の呼出条件が成立したときに呼び出される第1呼出ルーチン（図8のSb4のフリーズ状態制御処理、図9のSk17のエラー処理）と、所定の割込条件が成立したときに呼び出される第2呼出ルーチン（図9および図10のタイマ割込処理（メイン））とが含まれ、

前記演算処理手段は、第1呼出ルーチンが呼び出されたときは前記演算処理手段による演算状態を特定可能な特定情報（フラグレジスタの値）を所定領域に格納しない状態で第1呼出ルーチンの実行を開始し、第2呼出ルーチンが呼び出されたときは特定情報を所定領域に格納した状態で第2呼出ルーチンの実行を開始し（図8のSb4のフリーズ状態制御処理、図9のSk17のエラー処理は、呼出元フラグレジスタの値をスタック領域に格納せずに実行され、図9および図10のタイマ割込処理（メイン）は、呼出元フラグレジスタの値をスタック領域に格納してから実行される）、

前記事前決定手段は、前回のゲームにおいて前記事前決定信号の出力制御を開始してからの経過時間に関わらず、今回のゲームにおける前記開始操作手段が操作されたときに、入賞の発生を許容するか否かを決定し、

前記事前決定信号出力制御手段は、

前回のゲームにおいて前記事前決定信号の出力制御を開始してから前記所定の規制時間が経過する前に今回のゲームにおける前記事前決定信号の出力制御が開始可能になった場合、該所定の規制時間が経過したときに前記事前決定信号の出力制御を開始し、

前回のゲームにおいて前記事前決定信号の出力制御を開始してから前記所定の規制時間が経過した後に今回のゲームにおける前記事前決定信号の出力制御が開始可能になった場

合、該事前決定信号の出力制御が開始可能となったときに前記事前決定信号の出力制御を開始する

ことを特徴としている。

この特徴によれば、前回のゲームにおいて事前決定信号の出力制御を開始してから所定の規制時間が経過せずに今回のゲームにおける事前決定信号の出力制御が開始可能となつたときに、前回のゲームにおいて事前決定信号の出力制御を開始してから所定の規制時間が経過するまで事前決定信号の出力制御の開始を遅延させることにより、前回のゲームにおいて事前決定信号の出力制御を開始してから所定の規制時間が経過せずに今回のゲームにおける事前決定信号の出力制御が開始可能となつても、必ず事前決定信号が出力される間隔が所定の規制時間以上となるので、事前決定信号の間隔を検査することで、1ゲームに要する最短時間が所定の規制時間以上確保されているか否かを正確に特定することができる。

尚、請求項1に記載のスロットマシンは、試験装置に対して出力される試験信号を出力するための出力制御を行うものであれば良く、試験信号の信号線やこれら信号線を試験装置に接続するためのコネクタ、試験信号を伝達するための配線パターン等を備えていないものであっても良い。

また、請求項1において試験装置が行う性能試験とは、スロットマシンが適切に動作するか否か、遊技用価値の付与率が適正な範囲となるか否か等の性能を確認するための試験である。